

上川地域における課題解決に向けた取組

～木質バイオマスの安定供給に向けた取組～

上川南部森林管理署

【背景】

地域において林地未利用材等の木質バイオマス資源の活用が大きく期待されていることを踏まえ、上川管内の森林管理（支）署、上川総合振興局南部森林室等との連携により木質バイオマス原料の安定供給に向けた取組を推進します。

【これまでの取組・成果】

◆立木のシステム販売等により地域へ材を供給

木質バイオマス原料の安定供給のため、国有林材の安定供給システムを活用し、小径木が主体の木材利用が困難な林分を団地化することにより、木質バイオマス利用の推進に取組み、木質ボイラーの燃料をはじめとした町内外の発電用チップの生産量の増に貢献しました。

◆木質バイオマス原料の集荷コストの検証

木質バイオマス原料の供給のためには集荷コストの低コスト化が課題であることから、功程調査によりバイオマス対応型フォワーダを活用した林地未利用材の搬出コストを試算したところ、事業ベースでも実施が可能であることを実証しました。



◆木質バイオマスに関するシンポジウムを開催

地域住民等を対象に開催したシンポジウムにおいて、木質バイオマス資源を活用した地域創生について分かりやすいパネルディスカッションにより、一般の皆さんからも意見が寄せられ、好評を得ました。



H29.6 木質バイオマスに関するシンポジウム(南富良野町)

【平成30年度の取組】

◆林地未利用材の収集による生産性への影響について意見交換

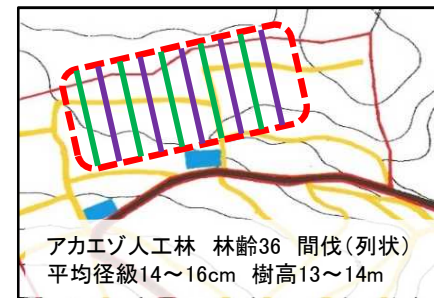
これまでは森林作業道付近に集積されている林地未利用材を土場まで運搬した際のコストを検証するため功程調査を行い、事業ベースで実施可能という検証結果が出ています。林地未利用材の収集による生産性への影響調査は次年度以降も継続することとしており、今年度は現地意見交換会を開催するなどしました。

次年度は確度の高いデータを得るため調査方法を変更し、列状間伐において「全木で木寄を行い林地未利用材も収集を行う」列と「間伐のみを行い林地未利用材を収集しない」列を交互に設定して、生産性等の比較や検証を行っていくこととしました。



H31.3 現地意見交換会(幾寅国有林 7林班)

— :未利用材収集列 — :間伐のみの列



アカエゾ人工林 林齢36 間伐(列状)
平均径級14~16cm 樹高13~14m

今後、様々な現地で調査を行い、樹種や径級、傾斜、面積等の条件因子についてデータの蓄積・検証を行っていきます。

◆森林共同施業団地における取組

南富良野町との森林整備推進協定の取組みとして、森林共同施業団地内の国有林の土場、路網を町有林と相互利用することで町有林の間伐を促進し、林地未利用材をはじめとした木材の有効利用や地域への供給に貢献しました。



【今後の取組みで目指すところ】

林地未利用材の収集と生産性について調査を行いデータの蓄積・検証を実施します。

- ・生産性や収益を考慮した林地未利用材の効率的な収集が可能な条件の整理
- ・林地未利用材の収集に対応した作業システムの検討

【今後の目標】

木質バイオマス原料の継続的な安定供給の実現



地域の森林・林業の活性化に貢献

